

2015年（平成27年）王祇祭より

撮影 福田利雄

私が、アマチュア写真家として撮影したものを紹介します。



山形県庄内地方に伝わる伝統芸能であり、国の重要無形民俗文化財に指定されている『黒川能』が黒川地区の鎮守である春日神社に奉納される『王祇祭』に、平成26・27年と2年にわたり足を運びました。

昨年は、『王祇祭』をすべて見ることはできず、期待していた「厳冬の雪景色」のはずが雪が少なく、心残りでしたが、今年の『王祇祭』の当夜は定宿から3軒先と、見学には最高の地であることを知り、雪も降っているということで、再度訪問しました。

『王祇祭』は毎年2月1日早朝から2月2日夕刻にかけて上座・下座の「当屋」と呼ばれる民家（もしくは公民館）に能舞台が作られ夜を徹して能を演じ、翌朝には両座が神社に登り、神社拝殿に設けられた能舞台でも能を演じ神前に奉納する。

また、朝尋常と呼ばれる若衆による両座競争の神事をはじめ多くの神事が行われる、盛大なものである。

能を演じるのは玄人の能楽師ではなく、5～6歳の幼児から長老まで黒川に生活を営む人々なのである。』



期待した「厳冬の雪景色」の中、黒川の地元の人達と酒と精進料理で、『王祇祭』を語り、500年間に渡り守られてきた黒川能の謎を追及しつつ、何とも言えない、ひと味違った、田舎の酒盛りを楽しみました。